

〔養生訓飲食〕飲茶 烟草附

烟草は性毒あり、烟をふくみて眩ひ倒る、事あり、習へば大なる害なく、少は益ありといへども損多し、病をなす事あり、又火災のうれひあり、習へばくせになり、むさぼりて後には止めがたし、事多くなり、いたづかはしく家僕を勞す、初よりふくまざるにしかず、貧民は費多し。

〔和事始飲食〕烟草

慶長十年の比ほひ、始て日本に渡る、そのち諸人これを賞飲す。中今俗に飲食のうちにも、こゝに酒、茶、烟草の三飲は貴となく、賤となく、智あるもおろかなるも、わきてこれを賞す、されば酒は毒ありといへども、少く飲時は、人に益ある事醫書に見えたり、ことに聖人もこれをすて給はず、茶は渴を潤し、煩膩を去の能あり、たゞ烟草のみ、益なく害多き事、これに過たるものなし、俗輩奴婢のこれを吮は責るにたらず、士君子たる人の蠻國の俗をしたひ、身に害あるものをこのみ賞する事は、甚ひが事成べし、元和元年六月廿八日、將軍家より天下に命を下して、烟草を吸事を禁じ給ひしは、理ある御おきてなりしが、今其禁の弛げるこそなげかしけれ。

〔和漢三才圖會九十九〕烟草中

南蠻流外科青膏藥中、入烟草嫩葉汁、用能止痛排膿、止血殺蟲、凡藍及諸草葉生蟲者、以烟草莖汁灌之、猫犬蛇諸鳥皆惡煙氣、獨猿見刻煙草則抓食、凡人醉煙草者、嚼未醬汁解之、冷水亦可、

〔煙草考〕震軒云、烟草氣味辛性熱有毒、諸家之說皆同也。中其有毒、試以管中凝脂少許、納蛇口、脂之所至、肉色隨變、遂疆直死、田野人被蝮蛇咬、急採青葉、絞汁塗患處、即愈、永無遺毒之禍、或藏書以紙包

葉、或莖置于卷帖之間、笈筒之内、能辟蛀蠹、最勝芸草、銀杏葉及樟腦等、諸虫恐其毒如此、亦嗜之者、朝夕起臥、采管不能厭、雖未見甚有害也、其暗損、天年亦不可知矣、其過服、雖穀肉酒茶平和之物、亦能爲害、其要只在節之耳。